

アライグマの被害防止

入れない・捨てない・拡げない



北アメリカからペットとして日本に持ち込まれたアライグマ。今では、野生化したものが増加し、分布が拡大しています。それにともない、農作物被害や生態系への脅威を引き起こしているため、被害防止や捕獲など、早急な対応が必要です。



生態と分布

適応力の高さで被害が深刻化！

生息

平地から山地まで幅広く生息することができ、中でも水辺環境を好みます。民家の屋根裏や神社などをすみかにすることがあります。

食性

雑食性で、木の実や農作物、カエルや魚、昆虫など何でも食べます。

繁殖

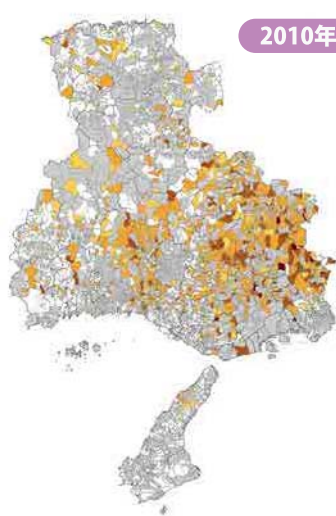
メスは1歳で出産します。年1回、3～6頭（平均4頭）の子どもを産みます。

特徴

するどい爪や歯を持ち、気性が荒く、個体によっては気性が荒く、引っかかりたり噛みついたりすることもあります。

分布

兵庫県では1990年代に初めて神戸市を中心に生息が確認されました。以降加速度的に分布を拡げ、現在では県南東部を中心に多くの市町で確認され、被害も深刻化しています。



2010年



2020年

アライグマ被害程度

□ いない
□ ほとんどない
□ 軽微
□ 大きい
□ 深刻
□ データなし

（鳥獣害アンケートより）

外来生物法

「飼育」「放獣」等は法律で禁止されています。

（外来生物法：平成17年6月1日施行）

これ以上の分布拡大を防ぎましょう。



飼わない



放さない



被害状況

農作物への被害

収穫期の田畑や果樹園などに侵入し、農作物を食べます。被害が多い農作物はトウモロコシ、スイカ、ブドウ、イチゴなどです。

分布拡大にともない、農業被害額も増加し、令和3年には4,875万円にのぼっています。



スイカ

中をくり抜いて器用に食べます。



トウモロコシ

両手を使い、まわりの皮をむいて、上手に食べます。

生活環境への被害

- アライグマの母親が屋根裏などに侵入し、出産や子育てをします。
- 家を糞尿で汚したり、柱や壁を引っかいて傷つけます。
- 生ゴミをあさるなどの衛生上の問題が起こります。



屋根裏で育った子ども



ひっかかれた寺の柱



屋根裏から染み出た糞尿

生態系への影響

日本に生息している在来の生物や生態系に影響を及ぼすことが心配されています。

- アライグマに食べられる小動物
(小鳥、魚、カエル、カニなど)
- アライグマと食物や生息域が競合する動物
(タヌキ、キツネ、テンなど)



人獣共通感染症の媒介

- 日本になかった感染症を持ち込む可能性があります。
- ①狂犬病、②アライグマ回虫症、③鳥インフルエンザなどを媒介するおそれがあります。
(①、②は日本に野生化したアライグマからは確認されていませんが、注意が必要です。)



鋭い犬歯

注意

- ❗ アライグマには絶対に素手でふれないようにしましょう。
- ❗ 糞尿の処理は慎重に！マスクやゴム手袋などを着用しましょう。



❗

作業の後は
しっかり手を
洗いましょう。





被害対策



餌付けの禁止・誘引物の除去

アライグマに限らず、野生動物に餌を与えることはやめましょう。繰り返して出てくるようになり、人なれが進んで被害が増えます。繁殖率も上がり、生息範囲を拡げることもつながります。



無意識の餌付け

生ゴミや収穫しない作物などを放置しておくと、エサ場として認識します。撤去できる物は取り除き、できない物は囲うなど防護しましょう。



防護柵

ネット柵や金網柵はよじ登られてしまうので、電気柵が効果的です。地上から10 cm間隔で、3～4本柵線を張りましょう。そのほか、電気柵とトタンの組み合わせや「楽落くん」も、高い効果が期待できます。

電気柵＋トタン

電気柵

ワイヤーの間隔を5cmにして2～3本張ります。

トタン

下部10 cm程度を地面に埋め込みます。



トタンでもぐりこみを防止し、登ったところで、感電させます。

らくらく楽落くん

埼玉県開発：中型動物農作物被害防止柵

電気柵

ワイヤーの間隔を3～5cmにして1本張ります。

ネット

幅33cmの楽落ネット（又はトリカルネット）を通電しないグラスファイバーボール等で張ります。



登るのが得意な習性を利用して感電させます。低いので圃場への出入りもまたいで入れます。電気柵用防草シートなどの組合せで雑草による漏電は防止できます。



民家侵入防止

春から初夏は、出産や育児のため、屋根裏などへの侵入が多くなります。建物の隙間をできるだけふさぎましょう。

侵入されたら、爪あとなどで侵入ルートを特定し、アライグマがエサを探しに外に出て行ったのを確認してから出入り口をふさぎます。また、その周辺で捕獲を試みるのもよいでしょう。



屋根の上を移動する親子



屋根裏につながる隙間



捕獲

アライグマは、放っておくと分布を拡大して、さらに問題を起こします。積極的に捕獲し、地域からの排除をめざす必要があります。捕獲方法は、まずアライグマの生息地である池などの水辺や、山林近縁に餌トラップを設置して、アライグマの寄り付きを確認した後、箱わなを仕掛けると、捕獲できる可能性が高くなります。

餌トラップ



全長10cm、直径4cmの塩ビ管と曲部90度のエルボを繋ぎ合わせ、中にキャットフードなどの誘引餌を入れます。木の枝などに吊り下げて、地面から30cm位に設置します。

箱わな



中に餌を置き、誘引された動物が入ると、扉が閉まる仕掛けのわなです。一般的なタイプ（写真上）の他、物をつかむ能力・習性を逆手に取ったアライグマ専用わな（写真下）も開発されています。

※捕獲には「捕獲許可」が必要です。鳥獣保護管理法に基づく有害鳥獣捕獲と、外来生物法に基づいた捕獲ができます。詳細は、市役所・町役場にお問い合わせ下さい。



他の動物との見分け方

動物によって被害対策の方法が違います。効果的な対策をとるためにも、アライグマと他の動物を見分ける必要があります。

アライグマ

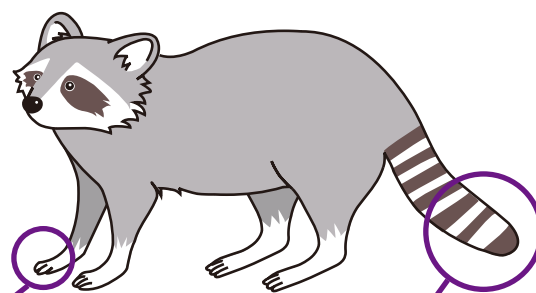
食肉目 アライグマ科

体重：6～10kg

体長：40～60cm

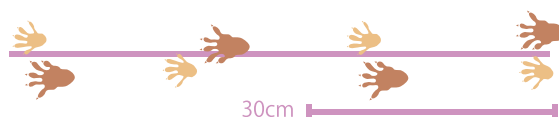
目の周りが黒く、白い眉があるように見えます。尾のしま模様は他の動物と見分けるポイントになります。

指が長く器用に物をつかむことができます。足跡にもその特徴が表れ、5本の指のあとがつきます。



尾は黒色と茶褐色の縞模様。

足あと



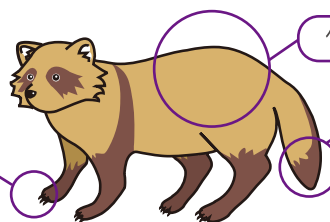
間違いやすい動物

タヌキやアナグマは里山などにすむ、日本の代表的な哺乳類です。

タヌキ

食肉目
イヌ科

体重：4～8kg



体の色が全体的に茶色

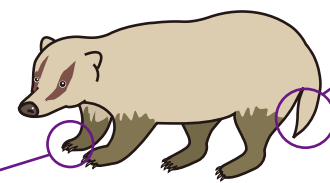
尾に模様がない



アナグマ

食肉目
イタチ科

体重：5～14kg



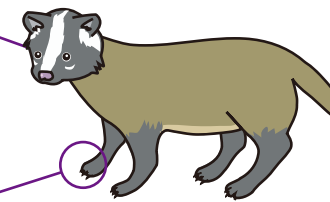
尾が短い

足が太くて短い



ハクビシン

食肉目
ジャコウネコ科
体重：3～5kg



顔に白い筋模様

尾が細長い



* 外来生物です。近年兵庫県内での目撃情報が増えています。

